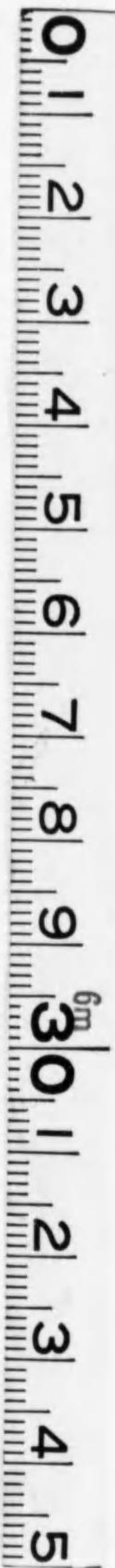


特223

819

同志社俱樂部講演集

NO.2



始



特 223
819

同志社俱樂部講演集

NO. 2

目次

昭和三年一月記念會講演
新島先生傳に就いて……………柏木義圓……………一

昭和三年三月例會講演
選舉の感想及び今後の政界の推移……………安部磯雄……………二一

昭和四年二月例會講演
議會への進出と無産黨の立場……………山本宣治……………四九

昭和四年一月記念會講演
私の觀た新島先生……………金森通倫……………八一



新島先生傳に就いて

柏 木 義 圓

私は今、新島先生傳を書くことになつて居りますが、出来るか、出来ないか、何う云ふ様うに書く可きか、材料を蒐集した上でなければ、未だ一向見當が付きません。兎に角努力して私の最善を盡したい考であります。

二三年前徳富先生にお目に懸つた時「貴方は豫ねて先生傳をお書きになるとのことです、私共はそれを待つて居りますけれども未だ出ませんが、目下お書きになつて居る「近世日本國民史」はなか／＼大著と見受けられますが、あれが完成した後ちでなければ先生傳にはお着手にならないのですか」とお尋ねしますと「否、決してさうではない。筆を執れば一ヶ月位で書けるが、モーレー卿がグラツド・ストーン傳を書いたけ

れども其の宗教的信仰の方面には觸れないで、後ちにブライス氏が、グ氏の信仰の方面を書いた。私が先生傳を書けば矢張モーレーのグ翁傳のやうになつて仕舞ふ。グ翁は政治家だからそれでもよいけれど、先生の本領は基督教の信仰にあるから、それは聊か物足らぬ。それで私は先生傳を書くことを躊躇して居る次第で、決して勞を厭ふわけではない。若し他に適當の方があつて、先生のさうした方面から書くならば、自分の手許にある材料を喜んで提供する」とのお話でした。山室軍平さんは數年來私を見る毎に先生傳を書けと勧められてゐますが、私は何時も之を聞き流しにして居りました。所が昨夏、山室さんは徳富先生と話し合つて「材料を提供して下さることになつたから是非書け」と私に勧められました。然し既にデビス師の先生傳も出て居り私に別に新しい材料がある譯でもなく、又異つた見解も持つて居りませんから、お断り致しましたが、山室さんは猛烈にお勧めになつて、若し私が書かなければ先生に對して忘恩だとして極言されました。私は其の熱心に動かされないでは居られませんで

した。そこで先生を識つて居られる方々も最早御老年で、今の間に材料を集めなければ、時機を失する恐れもありますから、兎に角今から着手してどんなものが出来るか書き上げた上、徳富、山室兩先生まで差出して之を公にするか否かは一切お任せする積りで居ります。山室さんは「先生の御事業とか、時代の背景とか云ふ方面は徳富さんがお書きになり、クリスチャンとしての先生を貴方が書いて合著として出したら可からう」と申して居られます。他にも校友中さうしたお考への方もあります。私も其れには異存どころか、さうなれば私の範圍も極限されて寧ろよいと思ひましたが、徳富さんは「其れは可けない。かやうに書く範圍を定めるなどと云ふことは、互に掣肘して思ふ存分に書けないから可けない。貴方に存分に書いて貰ひたい。或は必要があれば私は別に書きませうが、自分は自分で書くと同様の心持で援助するから書け」と云ふことでありました。私は徳富先生のお手許にある材料を當てにしてゐるのですが未だ拜見して居りません。さうして私には未だ腹案も何も出來て居りません。それで

今晚皆様にお目に懸つたのは實に好機會でありますから、此の機會にお願ひ致しますが、どうぞ先生に就て御記憶の事や、お手紙や材料になるやうな物を御所持でありますれば御援助を願ひたいと存じます。

備て只今申上げたやうな次第でありますから、未だ別に申上げる程の事はありませんが、唯二三お話させて戴きます。新島先生は元來御身體が餘り勝れてゐらつしやらなかつた。米國でも往々御健康が勝れぬやうな事があつたやうです。明治廿一年の頃には既に學生に面會することを醫者から禁じられてゐらした程で、先生は「醫者に面會を禁じられては居るが話さない」と胸が破裂しさうだから」とて學生の有志を特に招致してお話なさつたやうな事もありました。東京へ大學創立の運動にお出懸けになつた際も、井上伯邸で卒倒して身體冷却、意識をお失ひになつたこともありました。このお手紙は其の年の五月十一日に大和の土倉庄三郎氏に宛てられたものであります。先生の御覺悟が見られますから其の或る部分を讀みます。

……陳者小生義も此兩三日前大學之近邊に移り獨逸の名醫ベルツ氏に診察を乞ひ先づ當分養生可仕積に御座候當地寄附金募集の義も隠然相運び候事に有之候間御休慮被下度候何れ不遠府下の紳士を招き一大會を可開計畫に候而して當府之取纏相付候は、直に大阪に而旗を揚げ申度心算に御座候何卒右の御用意成置被下度奉存候

……却説小生の病體に付先日來名醫橋本陸軍醫其他ベルツ先生等の談によれば小生の病症は早や心臟病に相違無之早晚小生は此病の爲に斃る可き覺悟せねばならざる由併し攝生の仕方によれば五年や十年は保つ可きやも難計由承知仕候間向後は全く事を打捨而閑散の身となる可きか將た益々戰場に向ひ血戦を試む可きかは一身上斷行す可き一問題に有之候生熟考するに寧ろ戦地に在而一步も退かざるは平素戰士の心得たる可しと存候間養ひながらも進む可き覺悟に御座候就ては何れの時か俄かに斃るゝやも難計既に先日も當地に而俄かに病變を生じ身體冷却候得共又回復之幸を得候次第病變は何時來るかも知れ不申候間將來の用意も必要かと存居候

第一同志社之將來は粗用意致し社則を固くし校資を積むの手段に取懸可申候又其段等を一層高尚になす積に候後任に注意可致候専門校の企も小生に代り盡力す可き人物は用意致し置可申候而して小生もとても世に永くながらう可き者にあらねば存命中何事なりとも天父に向ひ邦家に向ひ同胞に向ひ竭す可き覺悟に存候前文申候通戰場よりは一步も退かざる積に候

然し右之覺悟なし候得共只心に殘る所は妻の一事なり小生亡き後に當分支ふ可き事は出來可申候も往々は覺束なく候間同人貧困の時の用意を爲し置候而暮年に及び乞食とはなし度不存候右に付貴殿に御願上度一事有之候兼而御話有之候マツチとなる樹木植付之事也小生歸京之上貴殿に金三百圓御預可申候間小生をマツチ樹木植付之コンパネーとなし被下二十年の後貴殿と同じく利益を分ける丈之御約束を願置き家妻萬一之用に供し置度萬一利益なき秋は其れ迄の事にて貴殿に御心配は毛頭も懸不申候過日病變ありしをり此一点に心配致居今少々快き方に候間鐵面皮乍らも此一事

丈けは貴殿に御依頼申上置度候左すれば家内の事に付別に心を殘す所なく兼而の覺悟の如くに益々銳意戰地に進み先同志社之基本を固ふる事と専門校之創設に盡力奔走するの心得に候間貴殿にして小生之願を聞届け小生をして家を顧るの憂を省き斷然戰地に進ましめば貴殿之恩惠は海山よりも深且高矣と可申候……尤小生なり又家内なり其れ迄に存命なき事ならば右之資金は勿論同志社之資に加へ申度候云々
二十二年の秋には御身體は大部良くなかつたやうですけれども、大學の募金の爲に關東方面に御出馬の事になりました。醫師は其の健康を危ぶんで三週間以上居てはいけないと申したさうであります。其の節金森校長は七條ステーションに見送つて「今度の行、其の目的を達しないでお歸りにならば、この金森が此處に出張つて居て京都へは一步もお入れ申しません」と申されました。之は勿論戲言でありましたが、先生は之を眞面目に取つて「さうです。目的を達しなければ歸りません」と仰せられました。圖らざりき其れが識を爲しました。十一月廿五日東京から上州前橋にお入りでし

たが其の廿八日には激烈なる腹痛を起して御病臥、上州の寒氣は到底療養に宜しくありませんから、無理にも病を押して東京にお引上げになりました。故山路愛山氏は當時彼は既に心臟病の大患に罹り、人をして死期の遠からざるを危ぶましめたけれども、其の雄想烈志は彼をして病床に横臥すること能はざらしめ、殆んど自ら死の手の彼を覆ひつゝありしを知らざるものゝ如くなりき。彼は心臟病の仇敵とも云ふ可き互寒の時に向つて東上し、此残忍なる天氣を相手として上州に入り、更に進んで福島に到らんとし、傍人の諫止するが爲に僅かに其の行を思ひ止り、上州よりして再び東京に歸れり。若し彼をして其行く所に行かしまば、彼は其骨を白河關外に埋めしならん。

と曰ふて居られます。無限の憾みを遺して上州を去り給ふ時の御心持は、當時の御詩に實によく現はれて居ります。即ち

秋風蕭颯渡三刀川。欲去尙看兩野天。

新雁不知孤客意。聲々鳴到赤峰邊。

十二月の末には東京より大磯にお移りになりました。病愈々進んで神國拓開の意氣益々旺んに、病中筆を呵して長文の書翰を認め、各地の牧師、傳道師の方々を激勵されましたが、特に北越傳道に熱中し

小生の心は新瀉縣下の爲めに燃えて止まず。焰々の火は恰も淺間嶽上の烟の如し。と仰せられ

此度は全く大失敗（上州で病氣して東京まで退陣せしこと）に御座候得共決して落膽は不仕主の恩下に生命を繋ぐを得ば又々再舉を可計と胸算を立居小生も小膽もの乍ら一度企てしことは貫徹するの覺悟は有之候輕々敷落膽する者は事業を成し遂げざるを知らばなり

と病中意氣軒昂のさまが見られます。

不下止月下併能越上。跋涉八洲是我分。

壯圖却促男子涙。滴々瀉爲三縷々文。

一〇

これは其の當時焔々燃ゆるが如き胸中の磊塊を遣つたものでありませう。傳道着手緩急の順序を示して三種に色別けた地圖を指点し、病床にて傳道の作戦を計劃し給ふたのも當時でありました。御病氣は勿論重態にて在り乍ら奥様もお呼びにならず。御永眠一週前までは看護婦さへ附添はず。只秘書長岡氏と淋しく客舎に臥し居り給ひしのみ。先生は固より馬革屍をつゝむを分として居り給ふたやうであります。斯る際にも傳道者を慰撫することを忘れ給はず。或は爲替を送り。或は某氏には幾歳位の子供があるから、総でも見計らつて買つて送つて呉れと仰せられたこともあつたさうであります。

先生晩年の二大關心事は、同志社大學の創立と一致組合合同問題であつた様に存じます。先生は固より此の合同には大反對でありました。當時此の問題は餘程進行し合同案も出来殆んど今一息で成立せんとして居りました。組合教會側では先輩は皆

合同に熱中して居られ、宣教師側獨りシドニー、ギユリツキ氏を除いて皆賛成し、同志社の先生方もデビス先生と浮田先生とが、先生に同情して居られた外は皆賛成側、先生は殆んど孤立で、唯僅かの少壯牧師と青年とが先生の御精神に感激し、大勢に抗して奮闘して居たのでありました。世には兩教會が合同となれば、同志社は合同教會の學校となり、先生に不利だから反對なされたのだと解する向きもあつたやうであります。其れは全く誤解だと存じます。先生はニューイングランドに在つて、ビューリタンスピリットの粹を呼吸し「自由の住む所、これ我が郷」と云ふ飽くまで獨立不羈、自由自治の精神に鑄冶され、且つ自由民権は當時の日本の時代思潮であつた所から、先生は當時の民権家の自由論には左右なく與みし給はなかつたが、眞の自由自治は精神の根本より來らざる可らず。其れを根本より鑄成するものは自治教會の組合教會ならざる可らずと信じて居給ふたやうであります。然れば自由教育、自治教會は先生の二大生命で、當時合同案の骨子たる神學は組合教會の自由、教會政治は一致教會

の統一主義に依ると云ふことは先生の堪へ難い所であつたのでありませう。或時先生は合同にして若し成らば、北海道へ退いて耕すまで仰せられました。先生のお手紙の中には、他派と傳道地を競ふやうに見ゆる所もあつて、今の私共から見ると何んだか宗派心に偏して居るやうに思はれ、斯るお手紙は無くもがなと思ふたこともありますが、然し能く考へれば、これは先生が傳道を競ふて徒らに繩張りを争ふと云ふやうな事では決してなく、自由自治の精神を日本國民に扶植するには、何うしても教會よりせざる可らず。而して之を爲すは自治を根本精神とする我が組合教會ならざる可らずとの確心より、熱心に組合教會の傳道の擴張を企圖し給ふたのみで、他心はあらせられなかつたのだと存じます。先生の神學はオルソドックスの方であつたと存じますが、然し其れは單に固形の學說ではなくて、先生の信仰であり、生命であつたと存じます。而して先生は舊神學を株守して、他を容れないと云ふ様な狭量な方ではありませんでした。故大西祝博士が未だ大學の學生であつた頃、將來同志社の教授たらせん

が爲めに、同志社から同氏を獨逸に留學せしめんと議があつたやうであります。其の時同氏は金森校長を通して、將來同志社に入るとせば、自由に其の説を述べて教ゆることを許されんこと、一定のドグマを以て其の教授を檢束することなく、寧ろプラチカル、バイエタイを以て基督教の前途を開拓したと申出られました。先生は同氏の意見に任ずるは最も望む所だとお答へになりました。プラチカル、バイエタイとは實に善い語であります。

先生は憂國の志士でゐりました。脱國と云へば吉田松陰を聯想させますから、又尊王攘夷をも聯想しますが、當時既に開國思想を有ち、蘭學者の流れを汲まれた爲めか、先生には攘夷の臭氣は更に無いやうでありました。然し先生は憂國の志士でゐりました故に先生の基督教は經世的基督教だと見る方もあるやうであります。勿論先生の傳道は經世と結び附いて離れなかつたと思はれます。然し決して經世の爲めの信仰ではありません。先生は實に單純なる信仰、幼な子の信仰を持つた方でありました。其の

一例は先生がアンドワ在學中、チャタムと云ふ所へお出でになりましたが、乗換の驛で車掌から注意を與へられましたけれども、雨聲の喧しきと熱心に讀書して居給ふた爲めに之を聞き洩らし、遂に乗り越して仕舞ひ、ニューベッドフォルド市の手前で始めて氣が附きましたが、最早引返しても其の日に目的地に達する事が出来ないのです、其處へ下りて一泊するの外はありませんでした。其の土地は勿論全く不知の所でありますから先生は主に自分を守り、安全なる宿に導いて下さらんことを誠實にお祈りなさいました。斯くて其の市に下車して知る人とはありませんから、先づ教會の牧師を訪ひ、成る可く安價なる宿屋に紹介して貰ひたいとお頼みになりました。それはチャタムの知人の所へ往く積りで、充分なる金の用意がなかつたからであります。牧師は貧乏なる旅人だと思ふたか、半弁を與へて今晚の宿料の半分に當てよと申しましたが、先生は唯宿所を紹介し給はらば其れで十分であるとして之を辭し、件の牧師に伴はれて行かれました。所が彼は一の船乗りの家へ案内せんと致しました。それは先生を

貧しいスペインの漁夫だと思ふたからであります。併し行く／＼先生がアンドワに在學中なる事、パーク教授を知つて居る事、日本脱出の事情、眞神を信じて居る事など聞くに及んで、改めて其の市一等の旅館に案内して、其の宿料をも拂つて呉れた爲め一夜を安らかに過すことが出来ました。先生は主が祈りを聽き給ふたことを感謝して之をハーデー氏に報じて居られます。國家の爲め、社會の爲め、人の爲めに他に寄附を求むるのは更に恥づる所はないけれども、自分の爲めに求むるのは獨立男兒の屑しと爲さない所であります。斯の如く國家社會の爲めに祈るのは、聊か恥づる所は無いです。然し「我儕の日用の糧を今日も與へ給へ」とは、キリストが教へ給ふ所でありませぬ。本當に天父の天父たるを信する者には、先生の此の場合のお祈りは極めて自然であります。

先生は實に日本武士の素質にアングロサクソン清教徒自由の精神を鑄込み、其れに

聖靈のバプテズマを受けた偉人でありました。天はさう多くの偉人を我儕に濫與致しません。一代に一人、否な三百年、四百年に僅かに一、二人しか興へません。されば我儕は之を大切にし、少しでも廣く、深く、遠く、永く其の感化あらしむるやうにせねばなりません。然らざれば天與を空しくすることになります。恐くは福澤論吉先生と新島先生とは明治時代に興へられたる日本の二大偉人でありませう。福澤先生は人が二三日後にやることを二三日前に云ふ人で、數千歩先きに行けば人がついてきませんから常に二三步先きに立つて行く人でありました。百年の大計など申す事は先生には無意義で、新島先生が「同志社の事業は二百年を期す」と云はれたのに、勝海舟伯が感心せられたと云ふことでありますが、そんな事は福澤先生には空想であらう。されば福澤先生の事業はなかなか大きなものであるが、皆世に實現して既に過去のものとなつて仕舞つて居ます。然し先生の理想の實現は將來に在ります。單に現はれたる事業より見れば、別に先生の大を見ることは出来ません。先生の墳場は過去に在らず

て寧ろ將來に在ります。これは特に先生を傳へざる可らざる所以であります。然らざれば天與を空しくすることになります。然し徳富先生は大久保甲東などを傳ふるは比較的易いが、先生を傳ふるは難いやうに申されたど記憶致します。實に其の人大にして其の事業の左程大ならざるもの程書き難いものはありますまい。キリスト時代の歴史家は殆んどキリストの事を書いて居りません。偶々あつても極めて簡単に數行に之を片付けて居ります。それは其の筈で、キリストの事業は當時でなくて、將來否な永遠の限なき將來に於て其れが發展するのであるからであります。其れだから是非之を傳へることが大切であります。若し四福音書記者が之を傳へて呉れなかつたならば、創世以來唯一無二の天の賜與が空しくなつて仕舞つたでありませう。キリストの御事業は其の當時未だ現はれませんでした。然し一千九百年來益々大に現はれたから、イエス傳に筆を染むる者輩出して汗牛充棟管ならぬやうになつて來たのであります。而して四福音書記者がキリストを傳へたから、キリストの感化が深く、永く、遠く及ん

で止まないであります。

福澤先生の御事業は大は則ち大ですけれども、それは既に過去で新島先生の御事業は將來に在ります。されば何うしても之を傳へなければなりません。其の御事業の記すべきものは甚だ少いのでありませうが、新島先生其の者を傳へなければなりません。事業を傳ふるは寧ろ易さも、偉人其の者を傳ふるは難くあります。私は其の人では無いが、只先づ槐より始めて其の人の出づるを待つのみであります。幸に他に書いて下さる方が有るならば、私は喜んで私の材料を提供致します。是非先生は傳へなければならぬと思ひます。既にデビス先生の御著もありますが、何と申しても日本人の著ではありませんから、何となく日本人にしつくりしない憾みがあります。數年前に根岸橘三郎君の「新島襄」が出で、最近又同君の「幕末開國新觀」が出で、其中にも先生の事が出て居りますが、随分出鱗目の事があつて、先生を誤ると存じます。然るに歴々の大家がヅラリと顔を並べて、序跋や、題詞を掲げて居られます。心ある者は苟も

紹介をも、苟くもしないと思しすのに、一讀しての上の序跋か、随分無責任のやうに私には思はれます。蓋し出版界の一問題ではありますまいか。尤も其の中の徳富先生の序文は其の中に著者に不利な所があつたので、其の處を削除せんことを求められたが、徳富先生は「これ迄多くの序文も書いて居るが、未だ嘗て著者の意に従つて削除したことなどは無い。之れで氣に入らねば掲げないで置いて呉れ」と申されたが、尙ほ強ひて乞はるゝ儘に「然らば其處丈けを〇〇と伏字にして掲ぐるやうに」と申された處、無斷に削除して掲げたさうであります。されば一見して徳富先生の序文が體を成して居らないで、削除の跡が見えて居ります。これは徳富先生の責でなくて著者の不徳であります。近頃米國にはロバート、ヒューズ氏の小説ワシントン傳が出て、米國人を驚かして居るさうであるが、其れにはいろいろ文献の依據があるとか申します。後世新島先生傳を書く者が、歴々の大家の序跋があると云ふ所から、根岸君の傳に依據るすやうなことがあつたならば、甚だ先生を誤ると存じます。私は海老名先生

はじめ序跋、題詞をお書きになつた方々の御意見を伺ひたいものと存じます。

(拍手)

選挙の感想及び今後の政界の推移

安部 磯雄

今晚は私の爲めに多数の方がお集り下さつて、洵に光榮の至りであります。私は選挙に就きまして多少お話を申上げて置きたいと思ふ事もありますから、それを少し申し上げます。さうして今後の政界と申しましても、私はまだ小學一年生見たいなもので是から研學して行かなければならない者ですから、これはほんの少しばかりの感想を申上げて見たいと思ひます。

私が今度の選挙に臨みます時、どうかこの選挙を理想的にやつて見たいと云ふのが私の希望でありました。私は始終一種のビジョンを持つて居るのであります。然し是は私に限つた事ではない。同志社の門を潜つた人の多くはビジョンを有つて居ると思

ひます。私も此の年になつても、矢張りビジョンがありますから、どうか普通のやり方でなくて、自分で本當に心持のよい選挙をやつて見たいと云ふ心を持つて居りました。それは第一は金の事でありまして、金を澤山使つて當選しても大した名譽ではない。又少し使つて落選しても、本望であると思ふ風な考へがありました。さうして實の處、自分も大して金は無かつたのであります。けれども私が多年、早稻田の野球團に關係して居りました爲めに、野球部の方の卒業生が組織して居る稻門俱樂部と云ふ團體がありまして、是が春秋二期の外幾度か試合をやります。此の頃では入場料を取つて居ります。然し無駄使ひをしないで貯蓄して居りました。私は二十七年間關係がありました。昨年野球部長を辭し、唯今は稻門俱樂部の部長と云ふ事だけであります。さう云ふ關係で多年の功勞に謝すると云ふ意味で、同俱樂部から一萬圓の目錄を贈られ、現金は私の請求のあり次第に渡すと云ふ事になつて居りました。それで私には外に財産と云ふものが無いのでありますから、選挙をやれば當然其の一萬圓を當て

にしなければなりません。少くも其の供託金の二千圓は其の中から出さうと思ひましたが、稻門俱樂部の中には、この一萬圓と云ふものは私の老後の爲めに、何處か田舎に少しばかりの土地を買ひ、小さな家を建てて、靜かに私の餘生を送る爲めにと云ふ様な意味で贈つたのであると云ふものもあつて、それを選挙費用に使ふと云ふ事になると、全會一致を以つて賛成して呉れず、中には俱樂部員で反對したものもありました。が私は二千圓の供託金は没収される事はないと思ふからこれは戻つて来る。あとを一千圓だけ選挙費用に使はして呉れと幹部に相談した。處がそれ位なら差支へ無からうと云ふ事でありました。さうして居りますと、是は選挙の始まるすつと前ですから昨年の五六月ごろ、名前を申せば皆様も大概御存じであります。さう大して早稻田關係でもなければ同志社關係でもない知人から、貴君は愈々議會でも解散すれば選挙をやると云ふ事がありますが、貴君の家には電話が無い。選挙の時に不自由だらうから一つ寄附しやうと云ふ申込みがあつた。處が私は今迄電話を掛けなかつたのは

一つは金が無かつたのと、もう一つは電話を掛けると随分煩さいと云ふ事を考へてゐた爲めでありました。と云ふのはベースボールの関係で、若し雨でも降り、天氣のはつきりせぬ時には、各新聞社、各個人から野球の問合せが大變來るので、不自由であつても電話を決して掛けないと云ふ長い間の自分の習慣でありました。それで電話の寄附の申込みに對して、私は其の事情を話し、電話を掛ける氣にならないから現金で貰ひ度いと申しました。(笑聲起る) 處が其の人はそれはお易い事だと云つて、時價千六百圓として、千六百圓は何時でも送ると云ふ事になりましたので、二千六百圓出來ました。それから後に少し自分で持つて居たものがありますら、供託金の外に三千圓は確かに選舉費用が出來た。そこで私は新聞記者にも、自分の選舉事務員にも、今度の選舉は三千圓でやる。それ以上は金が無いから仕方がない。是で破れたらそれでもいい。勝敗は眼中にないと云ふ事を私は云つて居りました。さうして夏を越して、愈々此の年の終りに近付いてから、今の議會が解散される様な形勢が見えて來たのであ

ります。そろ／＼選舉の準備をやらなければならぬ。幸に稻門俱樂部が出来るだけやりませうと云つて、選舉事務長もやつてくれ、先づ陣立が出來た。そこで愈々議會が解散して選舉の期日が何時と云ふ事が決まり、第一回の會を開きました。何は兎もあれ豫算案を作らなければならぬ。處が豫算を正確に作つて見ますと五千圓は要る。然し五千圓と云ふ金は、どうしても出來ない。金は三千圓しかないのである。それで稻門俱樂部では、先づ始めの手段として全國の早稻田關係の者に、強制的でなく、成るべく後援、同情の意味で寄附を募りませう。若しそれで甘く行かなければ、稻門俱樂部には別に金があるから、後の二千圓の不足を出す事に致しませうと云ふので、甚だ不本意でありましたけれども、どうも始めての選舉で、矢張りやるなら當選しなければならぬのでありますから、餘り我も張れませんが、それなら諸君の意見に委せるから宜しく頼むと云ふ事になりました。處が中々面倒なことになつて、安部後援會と云ふ様なものを組織して、金を募ると云ふ事になつたが、これは一寸喧しい事だと云

ふので、態々内務省迄行つてそれを聞いたところが、選挙区内で募集さへしなければ全国に亘つて募集するも、別に選挙違犯にならないと云ふので、やつと安心して愈々取掛らうと云ふ事になつて來ました。

處が實に意外と思ふことが起りました。私は全然外の方へ寄附を頼んで居りませんから、寄附金の來るものとは思つて居らなかつたのでありますが、選挙間近になつて私が立候補した事が新聞に發表されますと、ぼつりぼつり寄附がある。嫌ひな電話をもう一つくれやうと云ふ人がありましたが、是も現金で貰ふ事に致しました。(笑聲起る) 今度は其の人は千五百圓呉れましたから、一千五百圓の寄附があつた譯です。次に千圓の寄附が三口ありましたので、自分の金を出さなくても、六千五百圓ばかりの寄附が集つて參りました。其の千圓の寄附の中には、非常に私が感激した事があります。それは早稻田の卒業生で、二十年ばかり前に卒業した人でありませんが、在學時代は可成り私も親しくして居りました。處が學校を出て以來殆んど新年の手紙のやり

取りも無かつた人であります。大連で可成り實業の方で成功しました。其の人から或る時書留が來まして、開けて見ますと一千圓の小切手が這入つて居りました。それから世界的と迄は行きませんが、殆んど東洋的に南はスマトラ、上海、臺灣、更に今の大連、長春、朝鮮、さう云ふ處からも大分寄附金が集まりまして、結局選挙投票日の一週間ばかり前で、大概寄附金が止んで仕舞ひましたが、それ迄に八千五百圓餘の寄附金が集まつたのであります。然るに豫算は五千圓です。さう云ふ風になりましたから大分運動する者も氣が大きくなつた。さうして私のポスターなどが非常に貧弱で、最負をする各方面の人から、ポスターが見窄らしくて少ないから、もう少しやつたらどうかと云ふので、若い連中の事ですから負けてはいかぬと云ふので、ポスター等も盛んにやらうと云ふことになり又二二三万枚作つた。投票日が近付きますと、ピラを二十萬枚位作つて、形勢が危ないから各位の同情を乞ふといつて大いに運動しました。是は選挙の戦術として必要な事で、樂觀しては駄目で、非常に形勢が危ないから、有

権者諸君の同情を祈ると云ふ事にした。その爲め豫算を超過し、始めは五千圓であつたものが、六百圓ばかり餘計に使ひ、結局政府に届け出ましたのは五千六百圓でありました。其の外に事務所を無料で、勞力を無料で、又印刷等は紙代だけで印刷費を無料で提供して呉れた人もありました。さう云ふものを換算して入れますと、六千一百圓位になりますけれども、現金は五千六百圓だけ使つたのであります。其の外に選挙後の残務の費用と、私の乗つた自動車の費用は、全體の中には入れませぬから、此等の費用を去つて、今日二千五百圓ばかり残つて居ります。つまり私は選挙成金になつたのであります。(大笑起る)

今迄有つた事もない二千五百圓が郵便局に預けてある。ですから私だけは今度の議會の解散される事を何んとも思つて居らぬ。今度こそ自分の理想通りに、三千圓でやれると云ふ事の確信を得ました。始めてやればこそ譯が分らずビク／＼して、掛かりましたけれども、今度やることになれば、一向さう云ふ事は心配はない。二度目なら

ば何も彼も極めて簡便に行く。此の度は事務員を六十名置いて居りましたが、十五人位で結構手が足りると信じて居ります。それから應援辯士と云ふものも馬鹿々々しい話で、澤山の人を連れて来て辯士を頼むだけでも容易ではありませぬ。又辯士を頼む以上自動車で送り迎へをしなければならぬ。斯う云ふ事も是から先き考ふべきことで随分節約が出来ると思ひます。此の度だけは費用の點に於て、自分の理想通りに行かなかつた事を、甚だ残念に思ひますけれども、是は最初の事で思ふ通りには行かなかつたので、ケチ／＼して落選でもすると友人に對して濟まないと思つたから、少し奮發して金を使つた譯であります。

然るに私は費用の事を除いては、萬事自分の思ふて居る通りに甘くやりました。第一は選挙違犯と云ふ事を少しもやらなかつた。是は當然の事でありますけれども動もすると随分大びらに選挙違犯をやつて居る人がある。政府黨の方では公々然とやつて誰もそれを咎めるものがない。然し私共はさう云ふ考へはなく、幹部は全部野球團で

やつて居りますから。後には警察の方でも信頼して少しも干渉がましく、又は喧しい事を云つた事はないのであります。其の點だけは今でも私は非常に心持ちよく思つて居ります。それからもう一つの點は、私が始終スポーツの方から考へるのであります。が、ごうも我々は勝敗の念に強過ぎる。勝敗と云ふ事を非常に重んずるが爲め、スポーツをやれば勝つた時には氣狂ひの様になつて喜ぶ。負けた時には反對に失望し、落膽し、さうして中には若い連中は涙をはら／＼と流すと云ふ風である。私も随分長い間ベースボールに關係して居りました。一高が天下を握つて居る時分からの事で、試合をやるに選手が負けて時たま涙を流す事がある。私はそれを誠しめて全體スポーツは半分は娯樂で半分は體育である。楽しむ事をやつて口惜し涙を流すと云ふ事は實に矛盾して居る。そんなに口惜しいならばスポーツはやらない方がよいではないか。やる代りには早稻田の學生は勝つても驚喜せず、負けても涙を流さない。其處迄行かなければならぬと申して居りました。それ故私は今度の選舉に付いても一寸事務長に私

の考へを話して置きました。幸に私が當選する事があつても、事務所の前に大勢立つて萬歳を唱へたり、お祭り騒ぎをしては私の面目に關はるからと云ふので、丁度選舉の前日、事務所を覗いて見ますと「當選しても驚喜せず、落選しても失望せず」さう云ふ風の意味の掲示が出て居りました。そこで二十一日の晩、大體の結果が公になりました時に各新聞社から駈けつけた。丁度帝大の赤門前の處であります。其處へ駈けつけたが實にひつそりして居る。萬歳どころか人も澤山居なかつた。處が私を訪ねて新聞記者が十幾人か來て寫眞を撮つて歸りましたけれども、それが一しきり濟むと大した來客もなく、或る新聞の如きは安部氏の邸に行つて見たら、丁度お寺の様に森閑として居たと云ふ記事が出て居つた。是は何も街つてやつた譯ではない。私の平生のスポーツの心得を實行する事が出來たので、心密かに痛快を感じたのであります。ざつとお話を申上げればさう云ふ點でありまして、その事だけでも或はビジョンと云ふ事をリアライズされた様な氣がするのであります。

次に選挙中面白いエピソードがあります。これもお笑ひ草迄に申上げて置きます。私は選挙演説を六十六回やりましたが、大概一つの演説をすつと終りの二日を除く外は大概つゞけてやり通した。そこで了ひには非常にうまくなつた。殆んど落語家のお話の様に、此處に来ると聴衆が笑ふ。拍手をすると云ふ様にコツがすつかり分つた。(笑聲起る) 其の話の中に斯う云ふ事を云つたのです。現代の社會は丁度今の汽車の構造と同じ事で、汽車は一等、二等、三等と別れて居るが、鐵道省が其の收入を得て居る一億五千萬圓と云ふものは、殆んど全部三等客から得て居るのであつて、一等車二等車は設備費に對して收入を回復する事は出来ない。鐵道省から云へば損である。それは無論一等客は薩摩守たゞのりが多いから引合はぬ。二等でもさうである。極く田舎に行くと、東海道を別にすれば、必ず一二等車はがら空きで引合ふ筈がない。私の改造案は全部二等車にしてしまつて一等と三等を廢止する。さうして賃銀は今迄通り三等の賃銀で二等の設備にする。是が自分の案であると云ふのであります。然し或

る人は三等の値段で二等に乗ると云ふ事は、少し話がうま過ぎると云はれるかも知れませぬが、それは決してさうではない。自分は新宿から小田原急行で、小田原に行つた事があつたが、車體の綺麗な事、中の設備の整つた事は鐵道省の二等と同じである。處が賃銀は一哩に就て二錢五厘しか取つて居らない。が旅行案内を見ると鐵道省は東京驛から國府津迄約五十哩を、三等で一哩二錢五厘を取る。さうして見ると私立會社は二等で二錢五厘であるから、政府も當然二錢五厘でやれる筈ではないか。斯う云ふ事で、其の話は前後の連絡がなければ面白くないが、其の小田原急行の例を取つて度々演説をやつた。處が或る時本郷の事務所に或る人が電話を掛けて、私は今或る場所に居るんだが其處から使を上げて、安部さんに僅かでありますけれども、五十圓の寄附をしたいと思ふ。只今使ひが持つて行くから受取つて貰ひ度いと云ふ事でありました。そこで電話を受けた係の者が、誰方様ですかお名前を承はりたい。いや僕は名前を申上げる程の者でもありません。いや祕密にせよと云ふ事ならば祕密にもしますが

安部さんにだけは一應報告しなければならぬから、是非お名前だけはと云ひますと、それぢやあ申しますが、小田原急行の松田と云ふ者ですと云ふ事で、そこで皆んなはあゝ讀めた。先生が毎晩々々小田原急行の話をするので其のお禮だらうと云つて笑つたが、或る人が宣傳費としては安過ぎると云つた事がありました。(笑聲起る)さう云ふ一つのエピソードがあります。

それからもう一つは、私の演説の中に今の資本家が非常な金持ちになつたと云ふ事は、多少の上ツ張りを自分が取つて居るからであると云ふ様な悪い例を取つて水力發電のお話をした。水力電気はゴットが我々全部に共有財産として與へたものである。それを福澤桃助、若尾璋八と云ふ様な人が横から取ると云ふ事は、全體是は横領罪に當るんだと云ふ意味の事を、滑稽を混せて面白可笑しくお話をした。處が私の運動員の中に稻門俱樂部員で、一人熱心に働いて呉れた人があつた。其の人は自動自転車を持つて居りますので、使ひ走りまでやつて呉れた。處が其の人の兄さんが東京電燈の

重役をやつて居るのである。處が私の或る運動員がポスターを作るのは易いけれども張るのに困る。實際やつて見ないと分らないが、一々家の持主の承諾を得なければ選舉違反になると云ふことを云つたのである。そこで其の人は、是は一つ電柱にポスターを張つたらどんなにか便利だらうと思つたので、自分の兄さんの重役に向つて、兄さん私は此の頃安部さんの爲めに運動をやつて居るんですが、ポスターを張るのに困るから會社に相談して、東京電燈の電柱に張る事を許して貰ひたいと云つた。さうした處が兄さんはお前はそれを本気で云つて居るのか。本氣です。いやお前はどうかして居る。安部さんは毎晩々々どんな事を云ふか。東京電燈の若尾璋八と云ふ人を攻撃して居るではないか。ポスターを張らせて呉れなどは飛んだ事だと云つたので、弟は逃げて歸つた。是は失敗で、反對の悪い方の結果であります。(笑聲起る)

處がもう一つ、今度の事務所は駿河臺にありまして、是は篤志家が、丁度空家になつて居つた可成り大きな店を無料で提供して呉れた。事務所は大變良いけれども電話

がないので非常に困つた。處が其の隣が又非常な篤志家で、この話を聞いて電話は私の所を自由に使つて頂きたいと云ふ申出を受け、洵に都合が宜しう御座いました。そこで事務所は無料、電話は隣のが使へると云ふので、係りの者は非常に喜んで一週間ばかり使つた。ところが一週間ばかり経つと電話が使へなくなつた。さうして「今まで御用立を願つて居つたけれども、兎に角御使用を遠慮して頂きたい」と云ふ事である。これはどう云ふ譯か、始めはどうしても分らなかつたが、段々よく調べて見ると隣りは酒屋であつて、私が禁酒論者であると云ふ事が分つたらしく、そこで電話を使ふ事をどう／＼断られたと云ふエピソードがあるのであります。

それから是非は中々面白い事ですが、私は普通選舉と云ふ事が矢張り非常な進歩を來したと思ふ事は、有権者が自分のイントレストを考へて、候補者に質問の手紙を出すのは非常に面白い事である。私に向つて先づ第一番に三個所から手紙が參りました。それはラムネとか、サイダーとか云ふ様な、清涼飲料組合からの手紙で「今政府は清

涼飲料に對して可成り高い税を掛けて居りますが、其の税に就て貴君は賛成しますか反對しますか」と云ふのです。是などは實によい質問で、さう云ふ風に有権者がなつて來なければ、駄目だと思ふのであります。處が私共は清涼飲料の税を廢する方には大賛成でありますから、直ぐ返事を出して「社會民衆黨は消費税に對しては、反對であるから、さう云ふものは全部やめたいといふ考へを有つて居る」と早速返事をやつたが、多分第二區に於ては、大分僕に投票した人があるらしい。それからその次にやつて來たのが料理飲食業組合からの手紙である。是はどういふ事を書いて居るかと言へば「昨年の議會に於て幼年禁酒法案の改正案が出て、丁年以下の者は酒を飲む事は出來ぬといふことであつたのを、丁年では可けない。二十五歳以下の者は酒を飲ましてはいかぬと言ふ法律案が出て、否決されたが又今度の議會に出るかも知れない。貴君は之に對して二十五歳迄に引上げる事に賛成ですか、不賛成ですか」と言ふ事であつた。私は其の時に「無論私は禁酒法に就ては今のやり方でなく、段々年齢を引上げ

ると云ふ事より、もつと良い案を持つて居るが、さう云ふ事を精しく申上げる事は出来ませぬが、是には賛成です。私には色々の意見があるけれども、兎に角私は厳格な禁酒論者である」と云ふ事を書いてやつた。此の方面の投票は一票も這入らなかつた事と思ひます。(笑聲起る) 然し皆んな自分のイントレストと云ふ事を標準にして、候補者の意見を聞くといふことは宜しい事で、段々是が盛んになつて来れば、今の政治も自ら改善されるであらうと私は考へて居ります。

今の政界の事に就ては精しく分りませぬ。實際唯今の既成政黨と云ふものが何う云ふものであるかと云ふ事は私には分らぬのであります。丁度今の二大政黨は殆んど同數でありまして、無産政黨などが幾らかキャスタインボードを持つて居る姿になつて居りますから、私が當選致しますと早速兩方から直接間接勧誘らしい事が私個人にも随分あつた。又他の無産政黨個人にもあつた。先づ民政黨の方からは私に縁故のある人が三人も来た。始めは自分の知つて居る人が来たのであるから何んでもないと思

つて居りましたが、結局民政黨が不信任案を出したならば、無産政黨は是に賛成して貰ひたい。さう云ふ意味なんです。そこで私は斯う申しました。さういふ問題は決して言つて呉れるな。無産政黨といふものは今迄の政黨の様に、首領が一人斯う思へば全體の黨を動かし得るといふやうにはならないのである。極端にデモクラシーを主張して居るのだから、決して私一人の考へでどうなるといふ事はない。さうして無産政黨はまだ一遍も顔合せをして居らない。それだからどういふ態度を執るかといふ事は今お話は出来ない。斯ういふ問題に就いて段々勧誘されると、私はよいけれども外の無産黨員であつたら厭氣がさすかと思ふ。これは却つて民政黨の爲めにならぬから、無産政黨の者を訪問しない方がよいではないかと言つたので、民政黨はそれつ切り来なくなつた。政友會はどうかといふと、多少知つて居る人もありますが始めはちつとも参りませんでした。唯私が非常に厭やに思つたのは電報が二三通、政友會から来た事であります。其の前に申さなければならぬのでしたが、民政黨からも電報が来た。

政友會からも来た。民政黨からは前の憲政會内閣の時に大臣をして居つた人であるが私は曾て會つた事がない。さういふ人から祝電が来て「御當選を祝す。將來の御厚誼を乞ふ」とある。是が大臣ですからね。大臣だとして何も偉い事はないけれども、兎に角會つた事もない者にさういふ風な電報を送らなければならぬといふ腹の底を考へて見ると、甚だどうも卑しい様に思ふ。それから始めは電報でありましたが、後には丁度私が風を引いて二三日休んで居る時に、今度新しく千葉から出た代議士で、數年前から知合ひになつて、家族も多少往き來して居る人が来た。其の時には病氣の爲め會ふ事が出来ませんでした。處が其の後使を以て、何時私に會へるかといふ事を問ふて來た。そこで私は「此の際はお互に會はぬ方がよいと思ふ。私は貴君がお出でになる事を好みません。貴君の爲めに宜しくないと思ひますから、議會の濟んだ後で會ひませう」と云つてやりました。これは一遍切りで其の人の使も來ませんでした。斯様に色々やつて居る事を見ますと、大した事ではないが、兎に角今の政治といふものは上

品でないといふ事が、明らかであらうと思ふのであります。

次に今後の政界がどういふ風になるかといふ事に就いて私の考へを申し上げます。兎に角政界の不安は新聞社ばかりではない。新聞記者も實際不信任案がどうなるかといふ事は分らない。政府は勿論の事、民政黨もちつとも見當が付いて居ないのである。「どうでせう、今の處無産黨の行き具合で、どちらにか決まるか、どういふ風になつて居るか」といふ質問を新聞記者が始めた。處が無産黨は九日に會合しましたが、中には觸れなかつたのです。明日會ふと不信任案に對して、どういふ態度を取るかといふ事が大概分るだらうと思ひますが、今の處では私共には全然分らぬ。或る新聞記事に就いて警察監房の高等係が来て「どうも今の政界は分らない。どうか政界の動きの觀測を述べて頂きたい」と云ふ。そこで私は「貴君方に分らぬ事が、私に分らう筈がない。どうしても廿四日迄待つて貰はなければ、無産黨の態度は決まりません」と言つて分れたのであるが、明日は各無産政黨の會合をやりまして、態度が決まるこ

とかと思ひます。今朝の新聞に現はれて居つた様ですが、先づ無産政黨の獨自の不信任案を出すと言ふ事になれば、結局其の結果は政友會を助けて居る様な事になりはしないかと、私は思つて居りますが、自分自身の感情から申しますと、私自身の考へから言へば、此の際は民政黨の不信任案に賛成して政友會内閣を倒させる様な事をして置いて、さうして民政黨には無産黨が助けた爲めに不信任案が通つたとすれば、無産政黨の考へて居る事。例へば選舉權の擴張、婦人參政權、或は労働組合法、或は小作組合法、兎に角労働階級の團結權といふものを必ず認めなければならぬといふ事を、先づ以つて條件にする事を臭はせて置いて、さうして民政黨を助ける方がよい様に思ふのでありますが、何分無産黨はデモクラシーで、多數の意見で決まつて行きますから、ごういふ風になるか分らない。

それから茲に無産政黨の立場としては小さい問題で、また新聞などには書けない様な、くだらない事ですけれども、一寸無産黨で考へなければならぬ様な問題がありま

す。それは所謂無産黨が燕尾服を着て、シルクハットを被つて議會に出る事は、確かに漫畫のよい材料になりはしないかといふ事を氣遣つて居る人があることです。さういふ点に就いて或は開院式の時には缺席をする方がよいではないか。或は持つて居るものは着て行き、持つて居ない者は缺席する。或は全部決議をして、服装といふものをもう少し自由にする事を、我々は今の内閣や民政黨に注文して、さうして追々改めるといふ話が出て居る様であります。然し乍ら斯ういふ事は若い連中で鼻息が強いものですから、何に斯んな事にシルクハットを被つて行く奴があるかと心の中には思つて居る人がありますけれども、私一個の考へとしては、明日話して見やうと思つて居りますが、少なくとも自由問題にして、持つて居る者は着て出るといふ事にして、皆んな決席をする。ストライキを起すといふ事は穩かでないと思ふ。結局新渡戸さんが或る雑誌に書いて居るのが非常に面白い。それは新渡戸さんがジュネーブに居られた時、今から四年前ですが、英吉利の労働内閣が出来た。あの時に亞米利加に居る日本

人が興味を持つて、労働内閣が出来たが労働内閣員はどんな様子で出掛けるかといふので、暇のある者は倫敦迄出掛けて見て居た。處が内閣員が出掛ける時には燕尾服にシルクハットといふ風で、開院式の際に燕尾服かどうかは知りませぬが、シルクハットにフロックコートでやつて来たらしい。そこで見に来た者は呆氣に取られた。その豫想を裏切られた。矢つ張り労働内閣でもセントルマンの様子でやつて来た。それが英吉利人の實に面白い所である。主張は無産階級であつてもエチケツトといふものは別のものである。ですから労働内閣だつてシルクハット、燕尾服を用ひない譯ではない。是は始終自分で考へてゐる。高が服装の問題で頑張るといふ様な事をしたならば、却つて無産政黨はそれに依つて反動團體などの乗する處になる。是が重大な問題で主義主張といふ事になれば、多少頑張る必要もあるかも知れないが、實際我々のエチケツトはエチケツトとして漫畫の材料になつても高が知れたものである。明日はさう云ふ意味で、少くとも作れる人は作り、作れぬ人は態々高い燕尾服を作るといふ事

は出来ないから、開院式には缺席しても、有る者は着て出る。追々は黒い色の着物であれば、背廣でも差支へないといふ事を述べて見たいと思ふ。段々段々無産政黨が力を延ばして来たならば、其の時にそれを主張して然るべきものだ。私共は心は飽く迄も無産政黨、無産代表を以つて居りますけれども、何も無産政黨だからと云つて、髪はぼう／＼生やし、カラーは附けないでシャツの胸を押し廣げて歩く、帽子は鳥打でどん／＼議會に出掛ける。是は無産政黨だからと云つてやるべき事ではないと思ふ。然し乍ら是もデモクラシーであるから、無産黨全體がどうもさういふ考へを持たないといふ事になれば、どんな結果になるか分らないけれども、私は唯だ世の中の人を厭がらせる様なさういふ事をやつて行く事は、無産政黨の決して爲すべき所爲ではないと思ふ。殊に無産政黨の中に於ては、私の様に極く英吉利式バーリアメンタリズムで進んで行きたいと云ふものと、露西亞の様なダイレクタクションで行き度いといふ者が中にはありますから、此處は實に我々の考へなければならぬところであり

ます。

要するに當面の問題は露西亞式に行くか。英吉利式に行くか。此の二つの問題が横つて居る。私は飽く迄も英吉利人のやり方で、唯だソーシアルリホームーションと言ふばかりでなく、一人々々のリホームーションをやらなければならぬ。社會改造をやる前に個人の改造をやらなければならぬと思ふ。私は露西亞の勞働者と英吉利の勞働者との間に格段の相違があると思ふ。兎に角私のやり方は英吉利式のやり方であります。そうして此の二つのポイントがある以上どうも無産政黨が二つにはなるかも知れませぬが、一つになる事。露西亞と英吉利を打つて一九とする事は、唯今の所望みが少ない。獨逸に於ても英吉利に於てもコンミニストとソウシアリストと二つに分れてどうしても一緒に行けないと言ふのは、その根本思想に違ひがあるからではないかと斯う考へて居ります。

お話を致しました事が、實際の政治にまだ這入る譯に参りませぬで……これから議會に出で研學して、そろ／＼自分の理想に向つて進む事になりますのですから……甚だ取りとめのない話でありましたけれども、此の位の所で皆様にお許を願ひたいと思ふのであります。又私に向つて何か御質問でもありますれば、出来るだけの事はお答致したいと思ひます。一先づ是でお話を置く事に致します。

(拍手)

議會への進出と無産黨の立場

山 本 宣 治

私は同志社倶楽部の昔馴染の一人でございます。唯今から私の政治的教育の第一章第一頁の印象に就いてお話申上げやうとおもひます。先づ此處に参りまして大いに得た事は、同志社倶楽部の名簿などで高名を拜して居りました名士並に其の方々に一々觸れて見ると、案外偉いと思ふ人もありますが、さう偉くもない様な氣のする人もありましたので、是れなら天下を取ると云ふ自信を得ました。是は不屈な話でありますけれども、正直の處さう云ふ氣持が致しました。久しぶりに東京を見せて頂いたお蔭で面の皮が厚くなつたやうに存じます。

丁度海老名さんが總長に就任せられて後、歐羅巴に行かれる前、私共の間に送別會

やら討論會やら譯の分からぬ會のあつた事を記憶して居ります。其の時分は丁度此處に御列席の五島先生の門下でありましたが、至つて善良なる新人會の一人でありました。然し私は一向政治の渦中にも入らず、無産階級の解放運動と云ふものをも少しも解せず終つたので御座います。それから京都に参りまして與へられた題目が生物學で、宮守の生理發生と云ふやうな研究をやつて居る中に、何時の間にやらセツクスの研究になつて了つたのであります。それは同志社のお蔭で、帝大の研究室にばかり居れば斯ふ云ふ事にならなかつたかと思ふのであります。幸か不幸か同志社の豫科に來いと云ふ事で、參つて見ますと何分若い人達の事でありますから、何は扱て置きセツクスの事が知りたい。何を聞きたいかといふと、教科書にある事は聞きたくない。何か特種のことを聞かして呉れといふことでありました。元來教師が若いものでありますから其の氣になつて、學生共々性學の問題に重きを置いて居る中に六年ばかりたちました。然るに一昨々年でしたか、皆様と喧嘩をして、辨當費金十圓也で蹴られました

た。それは何故かと申しますと、丁度第一次の學生事件であります。一月十五日に學生がレフセ一行を歓迎するために檢舉されました。當時學生の下宿は片つ端から搜索され、私の所も河上さんの所も搜索されたのであります。學生の下宿は元より同志社にも警視廳の手が及んだ。その爲め皆様が私を呼付けて「生物學に特に誠意をもつてやつて居るとは思はれるが、此の際一應退いて呉れ」と云ふお話がありました。「然らば意見を闘はした上でなければ退職しない」渡せ、渡さぬと押問答をして居る中に到々辭めさせられる事になつて、二年前に同志社を出る事になりました。水崎さんにも特にお願ひして徴兵年齢の餘暇が消えますれば、二年何箇月の御厄介になつて、後で御禮を六年間さして頂いて、其の間に生理學を研究する事になつてゐたのであります。是れに就いては他日又御披露致したいと思ひます。さう云ふ様な譯で性の研究を進めて居る中に、系の運動といふものが盛んになり、農民學校、勞働學校から招聘されて、進化論や生物學概論などの講義をするやうになりました。然るに大勢の子供を

有つ澤山の人々に、多産の苦しみから逃れて、世智辛い世の中を切抜けさせるために、パースコントロールの研究に指をつけることになりました。さうして關西に於て産兒制限運動が私を中心として、宣傳運動を始め、雑誌を出すやうになりました。それからミス・マーガレットが來られた時は、通譯をすること云ふやうな色々な事がありました。初めて同志社の生理學教室から街頭に出て、労働者の運動となり、それが變じて産兒制限運動となり、更に一轉したものが労働問題並に政治運動であります。さう斯うする中に學校も蹴られて私は何處にも就職する事が出来ない。最後に皇室主義の或る學校に、内密で勤めました。是も探り出されて追ひ出されました。それが教育界に於ける私の最後であります。處が一昨々年新瀉縣及び京都府全體を通じて土地返還、小作人立入禁止と云ふ事が起りました。それに對して猛烈なる小作人の反抗がありました。小作人の長年作つて居つた田地に對して、少しばかりの小作料の押問答があつたのみで警察に持出された。然るに一回の尋問もなく、地主が申請すれば其

の儘直ちに立入禁止をやる。それでは小作人は安心して土地を作る事が出来ない。現に私の家に近い處に、同志社出身の大野と云ふ人があります。若い地主で中々法律も精しい。法律が精しいから法律一点張で小作人の小作料を一向負けない。色々押問答の末五月の何日かに立入禁止の札を立てた。小作人は植付けの時機が過ぎても植付けが出来ないで困つて居る間に、地主は其の雇人に命じて植付けをさして了つた。その雇人はつまり小作人側から見れば裏切者であつた。そこで雇人と元の小作人との間に一場の乱闘が起つて、立所に大勢の農民が集つて警官數十人を田圃の中に叩込んで了つたと云ふ様な事が起りました。此の小作爭議は一大事件であつたのであります。其の時小作人問題の爲め政府に請願を仕様と云ふ事が起つて、第一労働農民黨の指導に依つて始められた。私は丁度學校教師を辭めてぶら／＼してゐた頃なので、遂に議會請願の委員長に推されて、色々運動をすることになりましたが、目前の小作制の改正は中々出来ない。當時まだ民政黨はあの様な金持ちだけの集りであつたから、制限選

舉のある間は我々の解放運動は通らない。先づ其處に存する議會の解散を叫ぶ必要が起りました。之は演説なり、大衆運動なりに依つて、請願しなければならぬ。然しそれが労働農民黨の運動と入り組んで發達したのであります。そうして一昨々年の末、今我々の目標とする無産政黨が、初めて單一無産政黨と云ふ名前で労働農民黨が出来た。處が一年間は左翼、右翼中間の幹部が色々とお互の腹の探り合などで仕事が出来なかつた。そう斯うする中に今の労働農民黨の幹部であつた二十幾名の中、十餘名は芝の協調會館で脱退を聲明して了つた。而して我々日本労働黨は、安部さんの社會主義黨の右翼と云はるゝに對して、左翼ともいふべく、一昨々年の十二月に無産黨の分野が判つきりと分れて了つたのであります。それから一年ばかり経つて、愈々昨年二月の選挙に及びました。私はそれ迄に一昨年小手調として丹波で補缺選挙をやりましたが、それには三百八十票を得て、兎に角第三位となりました。處が一昨年京都府會議員選挙に於て、労働農民黨から二名當選して居る。是れが活動を始めて労働農民黨

の動かすべからざる根據地を作るに至りました。然るに昨年は丁度一週年ですが、二月二十日京都支部では水谷一萬票を得て第五位となり、私は一萬四千票を得て第三位を占めました。そこで政友會の支部長の某氏が、自分は遂に労働黨の爲めにしてやられたとて、切齒扼腕したと云ふ事であります。斯くの如くにして私の仕事は本來の生物學研究からセツクスの研究となり、産兒制限運動となり、再び産兒制限運動から労働者の解放運動となつたので御座います。然るに労働者の解放は政治運動でなければ出来ないから、三度政治運動となり、遂に私は政治の渦中に投ずるに至つたのであります。

さて此の議會のお話をする前に、少し前の議會の様子をお話する必要があると思ひます。前の議會の時には山本、水谷を除名すると云つて居りましたが、此の二人が目指されたのは當然切迫した關係で、あの時、後で米村君に聞いたのですが、某氏から若干何か出て山本、水谷を足腰の立たぬまで叩きのめして、病院まで送り込むといふ運

動をした者がある。それ故私共は議院に這入ると絶対安全で、守衛が二名附いて便所の送り迎へまでもして貰ひました。それは便所の中へ這入ると締め殺される惧れがありますので、殆んど大臣待遇でありました。(笑聲起る) 然し議院を出る時は控室から圓タクを頼んで貰つて、玄關の所まで自動車の運転手呼び、それに乗つて外へ出て了ひますと、それから後は良くなれ、悪くなれ、責任はないと云ふのでありますから、我々は後が危険だと見ると、丸の内邊りをぐる／＼廻つて、每晚降りる處を換へて、密かに下宿に名を偽つて隠れると云ふ具合で、二週間の間山本、水谷の行衛が知れぬと云ふことであつた。外へ出る時尾行を附けやうと云ふ事であつたが、それは結構であるけれども、却つて暴力團の道案内見たやうなものだと云つて斷つた。私は一歩議會の外に出て、危険だと感ずるときは、東京の街の中をぐる／＼廻ることゝ、幸ひ面が代議士面をして居らぬことで、餘り身邊に危険を感ずる様なことはなかつた。最左翼の労働農民黨は世間から鬼か蛇かと云ふ様に思はれて居りますが、事實を見る

と鬼でも蛇でもない。「貴君が本當の山本さんですか」と知らない人からよく聞かれると云ふやうなエピソードも持つて居ります。それから臨時議會はあの通り期間の短いものであつて、其の中に這入つて我々同志が何う仕様と云ふ見當が附かない。現に名前を読み上げられた時に返事はしたが、どちらへ行つて好いのか分らないので、うろ／＼して漫書の種になりましたやうなことです。そんな譯で發言を求めるにも、どんな手續を取るのか分らない。要するに控室に於て新聞記者に取り巻かれてゴシツプの種を作つたと云ふ極めて呆氣ないものであります。

それから越えて本年の此の議會になりました、少し様子が解つて參りました。そうして色々無産黨の黨員の労働者諸君から小言を受ける。「一體君達は何をして居るのだ。英雄的活動をやつて呉れるものと期待して居るのに何もやつて呉れない。無産黨はお行儀が良いと云ふことを聞いてゐるぞ。少しは運動をした方が良い」と煽動する者もありますが、實際あの議場に這入ると活劇をやらうと云ふ氣が全く出ない。民政

黨や政友會などが色々怒鳴つて居る中に這入つて、此方も怒鳴らうなどと云ふ氣持はどても出て來ない。それで意外に大人しい。世人は無産黨は皆紳士的であると云つて輕蔑するのか、煽動するのか、或は惡口を云ふのか、賞めるのか分らないやうな批評を下しますが、實際あの中で捻ぢ鉢巻でどう仕様と云ふ氣持は起きて参りません。然し是れは數の問題で、是れでも二十人位になるとウンとやるやうになると云ひますが實際どうか分らぬ事であります。それから是れは前々の日曜でありましたが、不信任案の決議をする爲めに民政黨では非常に議事妨害の目論みを立て、演壇の傍の階段を上つて田中首相の身邊に近付いた。其の時我々は「ブルジョア議員のする事は支那の戦争のやうなもので、決して犠牲者を出さないでやる積りだらう」と云つて居りました。果して田中首相の身邊に近付いたから、一つ拳固を食らはさうと思へばやる事が出来るのにやらない。階段をよちよち上つてデモンストレーションをやつて行くだけである。さう云ふ譯で人の活動するのは見たけれども、我々は何もやらなかつた。そ

れから發言の問題であります。無産黨議員の發言の場合は野黨與黨共に割合ひに靜肅に聞く、例へば淺原君が一般質疑をした時は、初めはおとなしかつたが、後には随分喧しくなり「共産黨事件に拷問を受けた」と云ふと「拷問など當前だ、赤々、非國民、露西亞へ行け」などと盛んに彌次が飛びました。そんな彌次など齒牙に掛けるに足らぬのであります。私が初めて演壇に立つたのは淺原君の後で、隙を覗つてやりました。兎に角一般質問をするのは大政黨からの順で、慣例を正格に重じます。二十名以下の團體では一般質疑は出來ない事になつて居ります。處が矢張り其處が政治的駈引のある處で、民政黨などは無産黨を煽動して、一つ饒舌らさうと云ふやうな心がありました。我々を一人入れると云ふ事になり、淺原にやらせるか、鈴木にやらせるかと云ふ事で争ひが起りました。前から申すやうに無産黨八名の中二名は日勞黨、他が六名で、社會民衆黨は御承知の通り議會主義を奉じて漸進的にやつて行かうと云ふのであります。我々左翼のものは議會は一つの方で、こんな議會に頼んでも我々の

標榜し且信じて居る事は通らない。そこで明かな對立が生じた。發言をするにしも自分がやるのであつたら内閣不信任とか、内閣糾弾を標榜して居るのではない。我々は無産黨からたつた一人しか饒舌れないのであつたから、最も鬭争力のある淺原君をやらせやうと云うのであつたが、順が中々廻つて來ないのであります。然し田中首相が貴族院に行つて衆議院に居ない。總理大臣が居なければ俺の雄辯を聞かすに足らぬと皆尻込みして居る。そこで無産黨は總理大臣は居なくても全國の人に聞かすと云ふ事で、淺原君をやらせることにいたしました。そしてどうせ出ることなら外の者も引張り出さうと云ふ事になつて、現在この演説場に居る者は其の積りで居れと云ふ事になりました。さて淺原君の政府糾弾の一節に、淺原君が宮城縣に行つた時、それを阻止するため、停車場に警官を送つて居つた。早くも危いと見て仙臺市に潜り込み警察部長に談判に行つた。所が「今の政府は資本家の利益を代表するものであると信じるから、若し君達の演説に一言でも口を開いたら負けである。だから饒舌らせな

い」と云ふ事で、其の演説會打壞しの事實の一節を述べ「望月内務大臣は之をどうお考へになるか」と質問した。それから此處で水谷長三郎君が「選舉演説の時に怪我をしたと云ふ事であるが、是れはどうするか」と云つて、其の場に居合せた一人を實例に取つて云つた。望月内相は案の定「そんな事はある筈がない。一應聞いたのであるが、左様な事はないと云ふことが分り、さもありませんと云ふ事で大いに満足した」と答辯しました。私は其處へ付込んで發言を求め「内務大臣の今の御答辯に對して一身上の辯明をしたい」と云ふので壇に上つて「今内務大臣はさう云ふことはないと仰せられたが、自分は斷言する。對談した其の時には新聞記者團の數名の立會で、現にこゝろ云ふことであつた。其の時の警察部長の話を要譯すると『今の政府は資本家の利益を代表する云々』」と云つたところが「何を云ふか、馬鹿、黙れ」と皆が咆哮しました。あまり騒しいので暫く黙つて、又話を續けましたが「兎に角さう云ふ有様で望月内相は斯様な事實無しと云つて居らるゝが、自分は萬警察署長に依つて、政府は

資本家を代表するものであると云ふことを明かに明言した。是れに對して内務當局はそんなことはないと言はれるが、帝國議會の立派な一員が嘘を云つたのか、或は貴君が嘘を仰つしやるのか、是はどちらか嘘を云つたことになりませんが、不肖山本宣治は嘘は云はぬ」と云つて壇を下つた。此の間僅か十分ばかりであります。それから其次に水谷君が「自分の一身上に就いて辯明がしたい」と云つて上つて行つたのであります。何しろ此方は淺原君を台にして、次々に一身上の辯明と云ふのであるから、斯んなことをやつた日には無産黨議員八名がぞろ／＼上ると云ふので、原惣兵衛君が壇上の上つて「水谷君の話は一身上の辯明にならぬから、それで發言は停止されたい」と云つたので停止になつた。斯う云ふ譯で中々普通の會議で議長と云つて發言を求めても、許されると云ふやうなことは出来ない。殊に多數の議員と云ふ恩恵がなくては發言せられぬと云ふ様なことでありました。處が翌日は辛棒して鈴木君を出した。前の日に散々いがみ合つて、俺の處に饒舌らせ、いやお前の處には饒舌せぬと云ふこと

であつたのでありますが……。

そこで今日の議會を少し説明すると、此の中には民政黨系の方もお出でのことでありませうが、卒直に申しますと、民政黨は戰鬪意識に燃えて居るけれども、事實腰の弱いことは言語同斷であります。初めに取つて置き永井君がやつて、次に鈴木富士彌君が出ましたが、長い間に種も切れて、民政黨では早く質問を打切り度い。そこで自分の方から、無産黨がやりたいだらうと、好意を示して呉れたのであります。それからもう一つは天下の政治は取つて代りたいが、餘り樞密院や貴族院の御機嫌を害はないやうにし、政府を打倒した時に跡の面倒があつては困ると云ふので、面倒な事情がられるやうなことは皆無産黨にさせる。喧嘩をさせ、鬭はせて置いて、戰機熟したならば自分共がそれに取つて代り、料理を仕様と云ふのであります。で淺原君にしても、鈴木君にしても一流の演説家でありませんが、唯だ左様なことから、鈴木君も一つやつて見たらどうか、君に譲らうと云ふので鈴木君が翌日出ました。處が私の議席

の左の端から河上丈太郎君、浅原健三君、水谷長三郎君、それから私、右の方には河崎助太郎君、其の隣りが武藤山治君、前の方には田淵豊吉君などと、色々なものが雜然として並んで居る。然るに鈴木君の演説に對して武藤君が非常に感心して「流石にジエネバの本舞臺を踏んで居るだけあつて、あれなら感心する」と云つて、政府委員である武藤君が盛んに拍手を送つて居つたと云ふ奇觀を呈しました。鈴木君の演説は労働讀本第一編第一章のやうな演説でありますから、あれは女學校の講演に相應しいものでありましたが、兎に角在朝在野鳴りを鎮めて聞いて居りました。然し我々から云へば争鬭力、肉薄力がない。次に本會議では浅原君、鈴木君の一般質問があり、それから其の次に労働者災害扶助法案で私は質疑を出しました。是れは議會の戰術に精しい方は御承知でありませうが、緊急質問と云ふことは、中々の責任のある事だと云ふので、其の質問をする時には三十名の賛成者が居なければ出來ず、また一般質問は二十名の賛成者が居なければ出來ないのであります。又反對、賛成の意見を述べやう

とする時にも、一口割り込まうとするには矢張り二十名の賛成者が要る。ですから一通りの事では此の八名の團體では何も云ふ事は出來ない。處が一つの問題が出て、第一に議會で提案者が説明する。是に對する質疑と云ふことでやつて行けば、田淵豊吉君一人でも出来る。議事進行に於ても割り込む事は出来るが、質疑で行けば出来る。労働者災害扶助法案は我々に取つては大事なことであつて、私も割り込んで行きました。是は本當の演説で三十分位やつた。それに對して長岡社會局長の答辯があり、又私が登壇した。是は三度までやるさうであります。私は三度までやらなかつた。兎に角我々のやうに演説をするに、演壇から引つ張り下されたり、停止をさせられたりするものは、臨時議會のやうなあんなことがあつてはと云ふので、清瀬副議長が「此のネクタイだと締められるから、締められないやうに蝶ネクタイに」とか「此處のボタンは外して置き給へ、さうすれば大丈夫だから」と云つていろ／＼注意して呉れました。そこで我々はその防衛手段を講じて、誰か締めに来ないかと云ふ覺悟で行くが

中々締めに来ない。ところが原夫次郎君が議員誘拐のことで佐藤實君に對して「政黨の魔の手は斯様斯々である」と云つて、佐藤實君の調書を読み上げた。そこで佐藤君は自分の罪が暴露されると云ふので、堪え兼ねて演壇に上つたが、中々其の調書を引裂かない。あゝ云ふものを裂くと公文書を破つたと云ふので問題になりますから、掴んでは置き、置いては掴むが、到頭破らなかつた。それから鈴木氏が質問をやつて是に關する材料の長い巻紙を振り廻した。振り廻した揚句、それを机の隅々にピンで止めて居る。田洲君も居るが皆手を觸れやうとしない。兎に角清瀬君のあの亂闘があつてから議員が怖がつて居る。それに引掛つたならば大變だと云ふのである。そこで座衛が色々注意を與へる。御承知の通り斯ういふ風に坐つて居りますが、必ず自分の座席を離れてはいかぬ。此の頃議員が利巧になつて、傍聽席から證人が見て居ると云ふので、腕は上からは振はぬ。それで下からこつん／＼と急所を打つ。何處に居ても椅子から離れてはいけないと云ふことを聞かされました。私共が街頭の演說會で、農民

組合の演說などをやりますと、巡查の先導で國粹會とか云ふ連中が壇上の上つて來て毆つたり締めたりします。或は仕込杖をもつて切る者があります。然し衆議院ではとても締め殺されない。あそこで締め殺されれば本望ですが……あんな場所では暴行はとても出来ない。こう云ふやうな氣持で腹が決つて居りますから、議場の演說はそれ程私の印象には残らなかつたやうであります。それから後の事で、是は餘り新聞記事にもならぬことのやうでありますが、私が豫算委員になりました、内務省の分科會で質問を致しました。此處にその議事録がありますから、之を御覽になれば分ることでありまして、問題は人權蹂躪に關する質問で、行政執行法の第一條中の保護檢束のことでもあります。此の保護檢束と云ふのは、演說會の中から警察署に引張つて行くことであるが、それは一晝夜以上の檢束をやつてはいかぬと云ふことになつて居る。けれども十日も二十日も、或は六十日もやつて居ることがある。拘留でも二十九日以内と云ふことであるのに、保護檢束と云ふものを左様に長くやつてもよいものであるかど

うか。更に甚だしきは三月十五日の共産黨事件に絡まる取調べに於て、警官が太繩で檢束者の足を縛つて天井から倒に吊り下げたと云ふことで、私はその不當を絶叫したのである。さうして「當局はさう云ふ風に思ふか。果して之を承認するのであるか」と云ひました。勿論是に關しては、左翼の最も急激な機關新聞と目せられて居る無産者新聞に、一昨日私が出したものが、第一面に全部載つて居りましたが、それは發賣前に官憲に取られて出なかつたのである。さう云ふやうに、當局の忌諱に觸れるやうな問題であつた。其の演説の時は餘り人が居なかつたからワイ／＼云はなかつたが、相手になつたのは秋田政務次官で、私もそれに對しては極めて懇懃に質問をしたのであります。

(議事録の要所朗讀……………)

……………)

斯う云ふやうな一種の脅迫であります。私はそこまで懇懃に、叮嚀に云つて來ましたが、人間でありますから、此の事件に就いて「最後の点は充分なる責任を以て斷言致します」と云つて置いて、拷問を受けた人の名前、それから係官の名前、其の警察署の名前などを、例へば一例を以てすれば斯うだと云ふ事で云つた。其の外に關しては名前を擧げて云はなかつたのです。

(議事録朗讀……………)

……………)

是れは政府委員横山警保局長が代つて答辯に出たのであります。私は警保局長の顔は見て居なかつたが、新聞記者が見て居つて、非常に困つた顔をして居られたと云ふことであります。それは横山警保局長の實弟で男爵石田英一郎が労働問題か何かで何年かやられて居つて、其の保釋の間に神戸で何かやつたと云ふので、六七年の刑を食つて居る。そして取り調べの時彼は足を縛られ、竹刀でぶん殴られ三度まで氣絶した

昨日も政府と喧嘩をやつたのであるが、さう云ふ喧嘩の様子は無産者新聞には書いて呉れるが、普通の新聞には、山本宣治が若干云つたといふやうな事しか書いて呉れない。そんなことで本當にブルジョア新聞は公に之を傳へて呉れることはない。外の人はいざ知らず、現在議會の利用價值は資本家人士のみにあつて詰り議會は資本家の議會である。其の中へ我々は労働者及農民の代表として、否一種の斥候として送り込まれたやうなものであります。兵力が多ければ戦もやれるが、たつた一人か二人では仕方がない。實際餘り意地を張つて向つて行つて除名するといふことになれば、我々は指を衝いても撮み出されなければならぬ。スパイとして敵の狀態を見て、議會といふのは斯ふいふやうなものだ、斯ふいふ風に議會は處理されて居るといふことを知る位である。又それと一面に於ては斯ふいふ様な問答をして、是はブルジョア新聞を介しては公にはならぬが、彼等がこの押問答に對してどういふ答辯をしたかといふことで彼等は表には民衆の爲めを考へては居るが、事實は自分の政權慾を満たすことに汲々

として居る。そこで我々は斯ういふ政府に對し、愈々鬭争力を確める爲めに之を傳へるといふことの外は無いと思ふ。斯ういふやうなことは色々な事情から見解の違ふ處で、例へば安部磯雄さんは、さういふものは過激だと言はれることであり、又こんなことを言ふと村田勤先生から叱られますが、それは充分辨へて居るのであります。兎に角斯ういふやうな方針でやつて居る。現に昨日の如きも昭和四年の追加豫算で、文部省の、東京、京都、東北、北海道の各大學に對する思想善導の追加豫算の事が御座いましたが、それに對して私は質問をいたしました。質問の要旨は「此の前の淺原君の演説のとき、勝田文相に對して、直轄學校の校内に制服の警官が闖入して、教室から學生を引致して來たことがあるが、それは文部當局に於ては一種の冒贖であるといふやうには考へないのか」といふ質問に對して、勝田文相の方では「さういふ事實は全然なかつたから淺原君の御心配は無用である」といふやうなことを答へたのに就いて私は尋ねた「此の前東京帝大でさういふ事があつたといふことを私は確に聞いてゐ

る。それを勝田文相は否認されたが、二月朔日には金澤のヒラサカ警察署の刑事が授業中の學生三名を引致した。それは何故かといへば、其のものが軍事教育反對をやつて不穩の行動があると認められて引致されたのであるが、それに関して文部大臣はさういふ風に考へられるか。それは事實あつたことである」と言つた。さうすると文部大臣は「成程教室に居る學生を引致したといふことを聞いて居るが、教室の中へ正服巡査が這入つて來るといふことはなからうと思ふ。それは後日調査してお答へする」と言ひました。そこで私は又尋ねた。「若し這入つたとすれば神聖なる教室に而も授業中に正服正帽の學生を警官が引致するといふことはどうであるかと思ふが」といふと、掘切委員長が「此處で其のことをお尋ねになつては何時迄経つても果しがないと思ふ」と言つたので、其の押し問答は一先づ止めることになつたが私は更に「色々口振りから聞くと、學校當局としては正服正帽の巡査が這入つて來ることは望ましからぬことで、さういふ望ましからぬことを避ける爲めに、昨今學校主事、生徒主事とい

ふものを設けられたが、是れは學校内部の刑事巡査のやうなものであると思ふ」と言つた。文相は是れに答へて「成程斯ういふやうな非難を受けるかも知れぬが、要するにつまり閻魔のやうな働きをしてゐても、心は佛の心で學生の爲めを思ふてやつて居るものである」といふことであつた。要するに學校主事は學校内に設けられた一種の思想警察といふやうなものである。尤も是れは坊ちやんや牧師の混血兒のやうなもので皆一種の人格者と言はれるやうな人であるから、さう思ひ切つて學生にスパイ的行動はしない。そこで「政府の方からはスパイと言ひますが、我々の方からは一つの左傾思想家を摘發しようとする熟練家を、學校に置くといふことに解して宜しうございませう」。「さういふやうに惡意に解釋されては困る。思想惡化と共に學校以外の聯絡を求めて、あたから人間の一生を過つてしまふ。其の過りを豫防する」。斯ういふことでありました。それから尙ほ私は「訓育費といふものは何に使ふか」と尋ねますと「これは一般交際費であり、或は親睦會を開いたり、或は遠足したりするに使ふ」かう

いふやうな答辯である。私の問は「成程さういふ風に承つては居るが、其の外使ひ道が随分ある。現に此の間或る大學で、金びかを着た人が表口を出たり這入つたりして居る。さうすると撮影技師が入口に控へて、其の出たり這入つたりするのを撮影して居る。是れで見るとそれが思想善導訓育費の一部になるのである。(哄笑起る)お互に大學に學んで金びかを着て、かういふやうな大講堂に出られるやうになるのだといふことを、地方の青年團とかいふものに見せ、多分は高等學校邊でも見せて、左傾してはいかん。右傾すればかういふものになれるぞよといふやうなことをやつて居る。尙ほ其の外に京都大學では三大節の式に學生が集らないので、集るやうにする爲め饅頭を呉れたり、時に依つては月桂冠の一杯も飲ませやうといふのである。もう一つ甚だしいことは、學生主事が學生の下宿を留守でも上つて行つて本箱の中を探し、マルキシズムに關する藏書はないかといふことを調べ、もしさういふものを讀んで居るものがあれば、ブラックリストに載せるとか、戒告するとかいふことです。然し學生も多

いから、それ等のものにも時に一杯も飲ましてやらねばならぬ。その飲ましてやる一杯の金が訓育費の中から出て居るかどうかは知らぬが多分さうだらうと思ふ。「それに就いて細かいことは知らないが、まさかそんなことはなからうと思ふ」と云ふ答辯でありました。それから話が進んで「弘前高等學校の學生が、信賴して居つた當局者に委ねた金が無くなつた。それに就いて色々批評があるが、金の行方は兎に角として生徒として當局者を糾弾するのはよくないといふことである。之れが若しよくないといふれば、學校内で悪いことをした場合、それを攻撃することは悪いことになるといふ事になる。例へば議員となつた場合の職責は、國政の事に當り當事者に弊があると認めたらば、斷然糾弾監督することが任務である。學校の中では唯だ只管に校長さんが有難いといふので、徹底的に論議することさへ許さぬといふことになつたなら、例へば學校は奴隸根性を叩き込むといふことではないか」と質したが、之れに對して文相は答へなかつたのであります。その時私は最前列に坐つて居たが、後ろでは「怪し

私の見た新島先生

金 森 通 倫

今晚は私の見た新島先生といふ題でお話致します。私が新島先生に始めてお會ひしたのは明治九年七月であつた。その頃は熊本バンドの人々は、まだ熊本の洋學校でキヤプテンゼンスに就いて學んで居つたのでありますが、私は迫害の爲め熊本を逐ひ出されたので、同志の者より一足さきに京都へ來たのです。その頃相國寺の門前はまた一面の桑畑で、同志社の建築物などは一つもなかつたのです。新島先生も寺町の借家にいらつしたので、私はそこへ尋ねて行つたのです。その途中御所の中を通るとき一人の妙な御婦人に會つた。妙な云つては可笑しいやうですが、その頃では實に妙でした。頭には麥稈帽子をかぶり、足には靴をはき、胴だけが日本婦人で、どうもその

頃の京都では一寸見られない御婦人でした。ところで私は直感した。は、あ、これが新島先生の奥さんだな。果して然り。寺町のお宅で、まづその御婦人にお目にかゝつた。かういふ風で先生の御家庭とは始めからお親しくしてゐたのです。それから三年間同志社の神學校で學び、卒業後は備前の岡山で傳道して居りましたが、その間も先生とは始終お親しくして居りました。實は私は先生から按手禮を受けて岡山教會の牧師になつたのです。なほ溯つて申せば、私は先生にバプテスマを授けていたといふ者です。その時は徳富蘇峰先生も御一緒でした。明治十九年には同志社の神學教授として、再び先生の許に歸つて來た。今度はまた四年ほど先生の御膝下で働きました。殊にこのたびの働きは先生の補佐役でもあつたので、一層先生を知るの機會を與へられました。

先づ私の見た新島先生は、第一に熱心なるキリスト信者でした。その信仰は昔のニューイングランド式のオルソタックス信仰でした。同じニューイングランドでも昔と

今とはえらひ違ひです。先生が信仰を始められた六十餘年前のニューイングランドは例のビルグナムファーザーの流れを汲んだ正統信仰派の根據地でした。先生はアンドウアー神學校で神學を研究されたが、そのアンドウアーは當時ニューイングランドに於ける正統神學派の中堅であつたのです。

先生がいよゝ業を終へて日本に歸られる時、たま／＼アメリカンボールドの大會があつて、先生はその席上で「日本教化の爲めに學校を起したい」といふことを訴へられたとき、其の精神に感じて數千弗の寄附金が集つた。そこで先生は日本教化の大望を懷いて歸朝され、早速京都の地をトして起された學校が即ち同志社です。ですから新島先生が同志社を起された大目的は日本の教化であつた。語を換へて云へば、日本にキリストの王國即ち Kingdom of Christ を建設する爲めであつた。この新島先生の大目的と精神とは初代の同志社に於て最もよく寫し出されて居つた。それは私共が神學生として居つた頃の同志社です。當時の同志社には實に濃厚なる靈的空氣が満ち

てゐたのです。同志社は實に祈りの家でした。生徒は皆祈る。教室で祈る。寄宿舎で祈る。相國寺の林の中で祈る。時には吉田山、比叡山、鞍馬山などに出かけて行つて祈る。その信仰はまた殆んどビュリタン式信仰でした。それから當時の同志社の學生等の抱負が又中々えらいものでした。これまた日本の教化を一手に引受けて居つたのであつた。我々の眼中には他教會も、教派もなかつた。たゞ同志社のみであつた。そして其の同志社を以て日本教化の中心とする積りであつた。かういふ大抱負はやっぱり新島先生から吹き込まれたのです。それでいよ／＼我々が卒業した時は直ちに日本の總攻撃を開始したのであつた。これも先生の差金でした。まづ關東には海老名君、東京は小崎君。大阪は宮川君。四國は横井君。私は又中國に出馬するといふ有様であつた。そして京都には總大將新島先生の補佐役として、山崎君、市原君、森田君等が残ることになつた。かういふ風に日本教化の一手引受けをやる積りで中々えらい抱負を有つて居つたものです。そして歳はいくつ位かといふに、いづれも二十四五歳以下

の青年ばかり。

この傳道精神は我々の卒業後の話だけではない。まだ同志社に學生としてゐる頃から、生徒の中にはこの傳道精神が充ちて居つたのです。一例をあぐれば明治十年の春、丁度西南戦争の起つたとき、同志社から四人の生徒が奈良征伐に出かけて行つた。それは市原盛宏君と徳富猪一郎君と藤島武彦君と私とであつた。市原君はさすが後に銀行總裁に成られただけであつて、その頃から經濟の道に長けてゐた人であつた。それで同氏を以つて遠征軍の兵站部長として我々はその後について行つたが、さて愈々奈良に着くと、第一が宿屋の掛合ひ、見事二十五錢を十五錢に値下げさせてそこに我々の本陣をかまへたのです。(笑聲起る)それから今度は全市を東西の兩區に分つて市原、藤島の兩君が東部に向ひ、徳富君と私とが西部に向つて、一齋にトラクトの爆弾投下の總攻撃を始めたのです。それも一晚の中に遣つ付ける積りで掛つた。徳富君と私とは西部攻撃に取り掛つたが、いよ／＼戰場に臨むとき、徳富君曰く「どうも中

々の難戦だから、一つ祈らうではないか」と。早速二人で公園内の木の下に屈んで祈った。それで勇氣を出してその夜の戦を勝利の中に終ることが出来たのです。まあ、かういふ擧梅で、我々は生徒の頃から、神學生と云はず、普通科生と云はず、ごんごん出かけて行つて福音宣傳をやつたのです。

さて私が岡山を引きあげて、再び同志社に歸つて来た頃は、もう生徒も大分殖えて同志社は中々盛んなものでした。そこで起つて来たのが、同志社大學設立の事であつた。今時の私立大學は何んでもないが、その頃の私立大學設立といふことは實に大した事でした。然るに一方には新島先生が非常にお弱りになつて、逆も御自分一人ではこの大任に當り兼ねるといふ所から、私をその補佐役とし、社長代理として同志社の一切の事を私におまかせになつたのです。そこで私は先生の代理として、まづ第一に同志社大學設立の事に取り掛つた。東京に出て森文部大臣の官邸で、帝大から外山博士等も出席して大にこの議をこらした事がある。伊藤、井上の諸元老たちもこの事に

は大に力を貸して呉れた。又民間の財界の有力家では、澁澤、大倉、藤田等も又一臂の力を添へて呉れ、私はまた各府縣の知事達を説き、その議事堂に立つて民間の有志者を集めて、大々的に同志社大學設立の擧を天下に訴へたのです。その當時外には徳富蘇峰先生等が居つて大いにこの擧を助けて呉れたが、内では病床の先生を佐けて専ら私がその衝に當つたのです。それですから當時新島先生が同志社大學を起されたその目的と精神とを私は一番よく呑み込んでゐるのです。もしも世人がその時發表された同志社大學設立の趣意書だけ見て、先生の精神と目的とを知らうとしたら、とんでもない間違ひをします。あれはまだ神を信せぬ日本の天下に訴へ、殊にキリストを信じない朝野の賛助員達の爲めにやつたので、先生の心の奥をその儘さらけ出す譯に行かぬから、彼等と共に立ち得る所の Common Ground まで下つて来て、その趣旨を發表したものです。私が各府縣を遊説する時もさうでした。公衆に向つて公にし得るのは我々の大目的、大精神の一部であつて、その全部ではなかつたのです。それは

決して世を欺いたのではない。眞に世の人と俱に立ち得る Common ground があつたのです。それはどうか同志社大學を起して、只に藝術家や學者を作るのではなく、國家の重きを身に背負つて日本の爲めに最善を盡し得る政治家や、實業家を作りたいと云ふことであつた。これは信者、不信者を問はず誰でも承認する所であつたから、そこに訴へたのです。素よりさう云ふ政治家や、實業家を作るにはキリスト教が本でなければならぬから、同志社はどこまでもキリスト教の宣傳をする積りであることを天に示したものであつたのです。この時先生の目的に少し變動があつたやうにいふ者がある。それは「始めの間こそ先生は常にキリストの傳道を以て同志社の目的となされたけれども、後には先生の眼界が廣くなつて、只傳道ばかりでは物足らず、政治界にも、實業界にも打つて出て、大いに國家全體に力を盡すといふ氣になり、傳道は同志社の全目的でなく、その目的の一になされたのである」と。これは甚だしく新島先生を強ひたもの、また誤解したものだと思ひます。

新島先生は僅か十年やそこらの間に、その大目的を變へるやうな不定見なお方ではありませんでした。私の知つてゐる新島先生はその大目的が終始一貫した。又信仰上にも精神上にも聊かも動搖を來たさなかつた大人格者であつたと思ひます。即ち先生の大目的は終始一貫日本の教化であつた。日本をキリストの王國にするといふことであつた。キリストの十字架を以て日本當時の四千萬の同胞の靈を救ふといふことであつたのです。同志社はこれが爲めに立つて、これが爲めに生きてゐたのです。では何故に大學を起されたかと云ふに、それは神學校から出る牧師や、傳道師等の手のみを經ては日本の教化を速成せしむるに手温いところがあるので、大學を起して各種の人物を養成して、それを政治界なり、實業界なりに投げ入れ、政治界は眞のクリスチャン政治家を以つて教化し、實業界は眞のクリスチャン實業家を以つて教化し、かういふ工合に各方面に True christian men を投げ入れて、それで日本の教化を速成する積りでした。云はゞ、同志社大學で色々な人物を作り出し、これに True christian spirit を

吹き込んで、彼等を日本教化の別動隊として繰り出すつもりでした。神學校から出す僅かの牧師や傳道師の手ばかりを頼んでゐては、逆も急速なる日本の教化は望まれぬといふ所から、この大學設立の壯舉に出られたのであつたのです。然しながらその大目的は、日本教化といふ事で一貫して居つた事は、決して誰も疑ふことは出来ないと思ひます。

先生は無論政治家ではありませんでした。又學者でも、事業家でもありませんでした。又單純なる教育家でもありませんでした。先生を福澤先生や中村先生等と一緒にして、明治の三大教育家などといふことは、これ又とんでもない間違つた批評である。新島先生は、世の所謂教育家達と肩を並べてゐる人ではありません。他の教育家たちの誰も持つて居ないものを先生は持つて居られたのです。即ち日本の教化 *Christianization of Japan* を自分の一手で、而かも同志社をその中心としてやるといふことでした。前に述べたやうに、我々初代の同志社出身の者共が、天下を一呑みにして日本

の教化を一手引受といふ精神で掛つたのは、即ち新島先生のこの精神と大望とを受繼いでやつたのです。新島先生を一口で評したならば、先生は *Great Missionaries* 即ち大宣教師でした。ある外國の本には先生を世界の十大 *Missionaries* の一人としてあげてあつた。實にさうです。

さてこれから少し云ひにくいことですが、序にここで申して置きたい。それは今日の同志社が新島先生のこの大目的と精神とを全く失つて了つてゐる事です。現今の同志社は決して先生の目的に添ふた同志社ではありません。先生の目的とは全く違つた同志社大學が出来て居ります。殊に今の同志社神學校は先生の目的とは全然反對な神學校です。私共のやうに同志社の創立當時を知つてゐる者の眼で見れば、今の同志社は全く別世界です。先生の靈は之を見て決して喜んで居られぬと信じます。(拍手)

昭和四年十二月七日印刷
昭和四年十二月廿日發行

【定價金五十錢】

同志俱樂部
附奧集演講

東京市赤坂區青山南町六丁目三十番地
青山會館內

發行人 兒 玉 茂

東京澁谷町上通一ノ二一

印刷人 中 井 繁 一

東京市赤坂區青山南町六丁目三十番地
青山會館內

發行所 同志俱樂部

振替口座東京四二二九七番

終

